情報入門演習前後におけるコンピュータ不安の分析

An Analysis of the Computer Anxiety before and after an Introductory Information Course

社会情報システム学講座　0311998174　林成玲
指導教員：鈴木克明　藤原康弘　市川尚

1. はじめに

コンピュータ不安とは,「コンピュータを利用する場面で身体的な緊張をしたり，緊張感を持ち，コンピュータを利用する場面を避けようとしたり，コンピュータの操作に対して自信を持てないでいる状態」[1)]を言う．コンピュータに対する前向きな態度はリテラシーの重要な要素であり，コンピュータリテラシーの基礎を学習する情報入門演習では，コンピュータ不安を持っている学生は解消されていなければならない．

本研究は，向後ら[2)]の研究をもとに，情報入門演習の授業改善への基礎的なデータを提供する目的で，学習者のコンピュータ不安を調査し，不安の要因について検討した．

2. 調査方法

2.1　調査対象

2001 年度前期の岩手県立大学「情報メディア入門」受講生（498 名, 全 10 クラス）が調査対象であった[3)]．「情報メディア入門」は，コンピュータ利用の基礎を学習する初心者対象の授業である．1 年前期の全学必修科目で, WWW 入門, ワープロ入門, 電子メール入門, OS 入門, HTML 入門, プロジェクト企画入門, 詳細設計入門，スケジュール管理入門の 8 項目を演習中心に学んでいく．クラスは学部混成で他学部の学生と一緒に授業を進めていくのが特徴である．

2.2　コンピュータ不安尺度調査システム

事前・事後アンケートを回収する目的でコンピュータ不安尺度調査システムを Web 上に開発した．利用した尺度は高山[4)]のコンピュータ不安尺度（表 3-1）である．開発言語は Perl で, 欠損値が出ないように未入力チェック機能を付加した．

2.3　事前・事後アンケート

事前･事後アンケートは, 開発した調査システムを用いて，全受講生に回答を求めた．

事前アンケートは，不安尺度と合わせて，属性（性別, 学部, クラス, 経験, 興味, 利用頻度, 所持状況）について聞く項目を設けた．事後アンケートは，授業の感想について 4 段階で聞く項目（テキストや演習の程度などについて 8 項目）と，授業で学ぶ 8 項目((1)参照)について 5 段階で聞く項目, さらに自由記述欄を設けた．

事前アンケートは 2001 年 4 月の第 2 週から第 3 週にかけて行われた授業の初回に，事後アンケートは同年 7 月の第 2 週から第 4 週にかけて行われた授業の最終回に各クラスで実施した．

2.4　参与観察・フォーカスグループインタビュー

受講生の 1 グループ(5 名)に対し，参与観察及びフォーカスグループインタビューを実施した．

参与観察は, 実際に筆者がグループワークに参加し, グループ内の学生の表情や行動を観察し，記録にまとめた．研究目的の参加であることは学生には知らせずに，2001 年 4 月 12 日から 7 月 19 日までの全 14 回について実施した．

フォーカスグループインタビューは，そのグループのメンバーに，事前・事後アンケートや参与観察の内容を確認しながら，授業中に感じたことを聞いていった．これは 2001 年 12 月 21 日に実施した．

3. 結果

3.1　コンピュータ不安尺度

3. 1. 1　クラス間の不安の変化の違い

クラスごとに教員が異なることで，結果に差が出るのかどうかを見るために，全クラスと受講前後の 2 要因の分散分析を行った結果，受講前後ともに差はないことがわかった（$F(9, 379)=1.643$）．これにより，全クラスを一緒に分析することにした．

3. 1. 2　学部間の不安の変化の違い

ソフトウェア情報学部生は，その学部特性上，コンピュータに関しての学習量が他と比べてはるかに多く, コンピュータにはほぼ毎日触れている．よって,「情報メディア入門」によって受講前後の結果に変化が出たとは言えない．これにより，ソフトウェア情報学部のデータは除外して，3 学部で分析を行うこととした．

3. 1. 3　個人レベルの不安と社会レベルの不安

項目を個人レベルの不安，社会レベルの不安に分けて，受講前後の不安の変化を t 検定でみたところ，個人レベルの不安では，減少方向に有意傾向が見られた（$t(239)=-1.813$, $p<.10$）が，社会レベルの不安では